

第32期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第3回 平成28年11月7日(月) 実施		
会 場	坂井輪地区公民館4階 講座室2	傍聴人	0人
会 議 内 容	1. 開会 2. 報告事項 (1) 第16回新潟県社会教育研究大会田上大会 参加報告 (2) 第58回全国社会教育研究大会千葉大会 参加報告 3. 協議事項 (1) 第32期 新潟市社会教育委員会議 建議策定スケジュールについて 4. 事例研究 (1) 「学びの循環」について (2) 西川中学校福祉体験学習の視察について ・地域と学校パートナーシップ事業について ・参加報告 (3) 西地区公民館コミュニティコーディネーター育成講座について (4) 「ふじみ子ども食堂」の視察について 5. その他 6. 閉会		
出 席 者	<b>【社会教育委員】</b> 伊井 昭夫 小川 崇 雲尾 周 齊川 豊 南雲 保子 横坂 幸子 渡邊 喜夫 <b>【事務局】</b> 三保中央図書館長 佐々木地域教育推進課長 五十嵐中央公民館長 松田中央図書館サービス課長 井関生涯学習センター所長 生涯学習センター(井浦係長、野坂主査、井部主事) 中央公民館(玉木主事)		
会 議 録			
<b>1. 開会</b> (事務局) これより第32期新潟市社会教育委員会議第3回を開催いたします。 本日は、神林むつみ委員、田村祐一委員、鶴巻清美委員、本間莉恵委員から欠席の連絡をいただいております。なお、新潟市社会教育委員の会議運営規則第9条に定める開催に必要な人数を満たしていることをご報告いたします。 また、長浜教育次長、中央図書館企画管理課小林課長は本日、所用のため欠席です。 本日、傍聴の希望はございませんでした。当会議につきましては、会議録作成の必要がございますので、録音と写真撮影させていただきますことをご了承ください。			
<b>2. 報告事項</b> <b>(1) 第16回新潟県社会教育研究大会田上大会 参加報告</b> (雲尾議長) よろしくお願いたします。 報告1につきまして、鶴巻委員のものでございますが、鶴巻委員はご欠席のため報告書をもって代えるということにいたしたいと思います。 では、報告2でございます。渡邊委員よりお願いたします。 (渡邊委員) それでは、報告2に基づきまして、ご報告させていただきます。まず冒頭、当日、全体会議を始め			

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

る前にご講演いただきました小川先生、どうもありがとうございました。詳細にわたってレジュメに添ってご講義をいただきました。こういう全体会議での講演にふさわしい中身であったなと深く感じております。

ここに5-1で聴講してということを書いてありますけれども、先ほどの報告1にも詳しくご報告があったと思いますが、教育とはどういう行為なのかということをもっと知らないで教育をするということはあるえないなというようなお話に刺激を受けながら講義を聴講していました。

その中で、特に生涯教育というのはどういうことを言うのだろうかということで、関連づけながらお聞きしておりましたけれども、聴講する人たちの心構えによってだいぶ違ってくるのだなということを感じた次第です。というのは、聞いていて果たしてこれは自分のためになるのか、ならないのかということと、上の空で聞いているのでは全然中身が違ってくるわけですし、そういう温度差が活動に対する反映度が違ってくるのではないかと。今回、全体を聴講いたしましたら、皆さん真剣なまなざしで講師に顔を向けられて、こういう講義というのはなかなか少なかったのではないかと、私が今まで参加した講義の中では、そういう意味では非常に収穫のある講義であったなというように深く感じております。改めて勉強の大切さというものを感じ、そして、それを通して行動の大切さというものを感じたということで、いかにインプットしたものをアウトプットさせられるかというところの問題点が、今後は自分にとっても重要であるのではないかと感じております。第2分科会のほうなのですが、つながりで人づくりとまちづくりということで、津南町の概要が説明されました。アドバイザーの方がお話されているのですが、お聞きしていて、アドバイザーの方は現場に出てやられた方なのかと、少し疑問を持ちながら聞いていました。基本的にはあらゆる地域で、あらゆる場面でいろいろな課題を持って皆さんが活動しているというのがいいのでありますし、もう一つは、やはり核になる人間、1人でも真剣になって働いてくれる、あるいは動いている人がいることによって活性化していくというようなことを改めて感じたわけですね。そういう意味では、今までにない勉強会に参加させていただいて、非常にありがたかったなと改めて感じております。どうもありがとうございました。

(雲尾議長)

ありがとうございました。ただいまのご報告におきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

#### (2) 第58回全国社会教育研究大会千葉大会 参加報告

(雲尾議長)

10月27日、28日に千葉大会が開催されました。伊井委員が出席されましたので、ご報告をお願いいたします。報告3でしょうか。

(伊井委員)

第58回の千葉大会と第51回の千葉県社会教育振興大会。これは全部重なっております、会場は全体会を千葉県文化会館で行いました。分科会では私は第4分科会に出席しましたが、また違うホテルでした。スローガンが、「千葉で語り合おう！未来を築く人づくり・まちづくり」ということなのです。研究主題が「学び合い、支え合い、高め合う社会教育の創造」と何か難しい言葉が書いてありますが、こういうことです。日程は、27日と28日。28日が分科会で、私は社会教育委員の役割ということで出席してまいりました。基調講演は「社会に役立つ人づくり」ということで金木有一さん。これはオリエンタルランド、簡単にいいますとディズニーの方です。その人事部長の話でした。

会社の概要でおもしろいことがあったので書いてみましたけれども、大体入場者が3,000万人、今年の外国から日本に来ている人が2,000万人だったのですか。2,000万から3,000万くらいの間だったと思うのですが、3,000万人来ているそうです。消費が1人当たり1万1,000円くらい。大体、収入の50パーセントがチケット代で占めているのだそうです。その次がおもしろい、95パーセントがリピーターだそうです。7対3の法則で来ている人は都市圏と地方が7対3、大人と子供が7対3、

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

女性と男性も7対3。何か講演会とかいろいろなものをやると大体、新潟市でも、関屋でもそうですけれども7対3です。女性が7で男性が3。こういうような状況です。どんな人材育成をやっているかという、オリエンタルランドらしいもの。それから、シンプルに作る、一貫してやるというものをやっておりましたけれども、少しおもしろいのは、先日、3.11の地震があったとき、マニュアルで動いたのではなくて、マニュアルなくして自分たちで動いたと。そこが会社とか何かだと必ずマニュアルがありますし、今のコンビニなどでも必ずマニュアルでしゃべりますからおもしろくないですね。はい、いらっしやいませ何々と。マニュアルで動く。そうでなくてマニュアルなし。自ら判断して動く。それで皆さん方をうまく誘導してあげる。そういう話をしていました。社会貢献活動は、そこに書いてありますように、どこでもやっているようなことだと思いますけれども、ディズニー・ドリーマーズ・エクスペリエンスということで、全国から子供25人を公募して夢を語ってもらうということをやっています。それから職場体験といったものもやっています。それから子供たちを支える活動で福祉活動をやっている。結論だけ一言言うと従業員自らが行動できるような、そういう職場の環境を作っているのだと。それが大事なのだということを言っていたように思います。

それから、シンポジウムは「地域コミュニティ再生に向けて」～人づくり・まちづくりをどのようにしていくか～ということの話です。コーディネーターは明石先生という千葉大学の名誉教授の方がやられました。シンポジストは後ろのほうに添付してありますので、それを見てもらうほうがいいと思います。自己紹介を兼ねて話しされておりましたけれども、岸川さんというのは、有名な人で、高校生レストラン「まごの店」、私は映画化されたものを見ていないので申し訳ありませんけれども、これは映画化もされているのだそうでございます。まだ、私は見ていませんが、確かYouTubeに載っていたような感じがします。この先生がこういうことをやったということで、この先生の話は分かりやすかったですね。

その次には、鈴木敏恵さんという人で、シンクタンクの未来教育ビジョンの代表です。この人の話は全然分かりませんでした。最初から最後まで分かりませんでした。これは、私が言っているだけではなくて、明石さんというコーディネーターが言ったくらいですから間違いないと思います。本当に分かりませんでした。ただ、そこに書いてあるように、言葉自体はなかなかいい言葉で、この世は知の果樹園だとか、製品と商品の違いとか話をされていましたけれども、正直なところ何を言っているか分かりませんでしたので、説明しません。あとは後ろのプロフィールのところも読んでみるとなかなかよく分からないような感じがあります。見てください。

それから、平岩国泰先生、この方は、放課後NPOアフタースクールの代表で、非常におもしろいことを言っておりましたけれども、2番目のところに地域の方々に、要するにボランティアと言わないで、市民先生という言葉を使っているのです。これは非常にいいです。これから我々も何か考えるときに、市民先生というなかなか人を引っ張り出すときにいいのかなという感じがしました。この市民先生という言葉が非常によかったというように思います。その下の地域コミュニティづくりには子供を使ったほうがいい。これも盛んに何か一つの小屋を作るときに、ただやってくれと大人が言ってもやってくれないけれども、子どもが私たちが使うのだからやってくださいよと頼むと、いやな人でもOKするというので、子どもを使うという言葉はよくないのですけれども、子どもと一緒にいくと理解を得やすい。これはなかなかいいなと思いました。

失敗例はありませんでした。人づくり・まちづくりはロボットでできるのかという、こういう話をやっておりましたけれども、なかなかおもしろい、今、盛んにロボットが使われておりますが、そういうロボットが出ているから説明したのではないかと思いますけれども、なかなかおもしろいなと思いました。中身は大したことありませんで、そこに書いてあるようなことだけだったと思います。

それから、第4分科会ということで、「社会教育委員の役割～人づくり・まちづくりを進める社会教育委員の役割～」には私は出席させてもらいました。事例発表が2件あって、その後、語り場ということで、グループワークをやったと。それがほとんど70分くらいだったでしょうか。事例発表は

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

ほんのわずかでしたね。一つが鹿児島県霧島市の話で、ここに書いてある取り組んだ例を紹介しておりました。社会教育委員は13名おられます。年3回会議をやっています。取組の例として、地域を支える子育てということをも月1回ずつやっていると。こういうものの発表と、子供たちに本を送る運動をやっていますよと。7年くらい続いていますというようなことを話しておられました。

2番目には、岡谷市のかたから発表がありました。社会教育委員が10名、2年任期の最大3期まで。これは新潟市と同じではないのでしょうか。それから、職務を達成するための意識する六つのことということで、そこに書いてあるように、一番大事なのは、一番最初の現場に足を運び・見て・聞いて・議論するという、これが一番大事なのでしょうね。何でもそうだと思います。社会教育の基本はこれです。新潟市の公民館職員の何かにもこんな言葉が入ったそうです。

その次が、語り場というところで、これにほとんど時間を費やしたわけなのですが、テーマは生涯学習や地域活動を推進するために社会教育委員が果たすべき役割は何か。求められている役割にこたえるには、社会教育でどのような研修をするか。全部で33班、約六、七名ずつが33班あったわけです。そのうちの私たちは10班で、10班がまた全部発表したのではなくて、その中の5件だけのうちの中に一つ選ばれて、その中にすばらしい方がおられて、渡辺さんという上越市の方と一緒に、この人は活発な方です。全部司会から、発表から、みんなやってくれました。私たちは楽しかったというようなことなのだけれども、司会進行から何からうまい方で非常によかったです。そんな中でひとつ、研修会等には2人以上で出席したほうが良いというような考え方を出されていた方がおりました。これはおもしろいなと。それはどういうことかということ、委員同士が親しくなると、1人で行くと1人の意見しかない、2人で行くと違った意見が出るということで、研修会には2人くらい出たほうが良いのではないですかと。そういうような話をされておりました。あと29班、31班、いろいろありましたけれども、そんなにこれはというものはありませんので、ちょこちょこ書いておきましたけれども。

助言者の二宮信司さんという方は話しておりましたが、この中に栃木県には社会教育委員のしおりというものがありますよ。たしか新潟市も県も、同じものを持っていますよね。そんなに目新しいものではなかったと思います。2番目、今は、次世代の育成と子育て支援に注目されていますよという話をされておりました。最後に要望として、多様な連携先・協働先を常に模索してほしいということでした。我々、ボランティアをやっている、こういうことが必要だなと感じました。地域の方が一人ひとり主役になるために活躍する場を広げてほしい。これは、何かやるときに、こういう場がないと活躍できないわけですから、こういう場を探すということも大切ではないかと思えます。一番要望していたのは、社会教育主事が減少していますと。何とか増やすように皆さん協力してくださいという要望をいただいております。

結論ですけれども、今回の大会を見ると、本大会出席者1,300人ですからね、そのうち新潟県12人で新潟市が3人でした。シンポジウム出席者が5分科会でほぼ満席ですからすごかったなと思えます。それから、情報交換会も正確ではありませんが計算すると230人くらいではないかと思えますけれども、要は大盛況でした。アトラクションの柏高校の吹奏楽部の演奏から始まったのですが、私は、少し遅れて行って十分見られませんでした。最後に語り合う場まであったのですが、これは非常に活気あふれていた大会なので、普通、しんとして聞いているだけなのですが、何となく雰囲気的に活気のあった大会ではなかったかと思えます。なぜかということ、そこに書いてあるのは、配置するのも全国の人をうまく分散していました。千葉県の人が多いわけですから、千葉の人が集まりますけれども、うまく分散していて、いろいろな方の話が聞けたということがよかったのではないかと思います。

それから、どの会議もそうだったのですが、女性の力がすごいですね。女性が活発でした。ものすごく力を発揮して、飲み会でも女性の力が圧倒的に強かったです。

今回は、来年の9月11日から13日に札幌でやります。それから、関東甲信越静の研究大会を沼津で11月16日から17日にあると。私の考えとしては、皆さんできるだけこういう雰囲気だけでも味わうといいかと、参加したらいいかなというのは、私の感想です。

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

(雲尾議長)

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。私も参加はしてきたのですが、柏高校の178人のビッグバンドでステージから通路からいっばいっばいでものすごかったです。部員は全体で400人くらいいらっしゃるのです。1,200人の高校なのに400人の部員はどういうことだと。柏市立なので市立高校で、全国大会には最初から一度も欠かさず参加したのは柏高校だけということで、当初から高いレベルを保っているところなのでしょうね。というのがオープニングにありましたので、大変、大会のほうは盛り上がりました。その大会に先だちまして、理事会と総会がありましたので、その中でありましたのが、例の寄付金問題なのですが、社教情報をお持ちの方は後ろを見ると振込用紙がついているのです。社教情報の後ろのほうに、今までに寄附された方のお名前が載っているのです。10月21日現在で778人の方が寄附をされていて、総額は281万円入っているという話です。社教連自体が年間800万円くらいで動かしていますので、そういう意味で、今回、300万円入ったというのは、かなり大きな成果にはなるかなと思います。今回の大会で、またそれを宣伝したはずですので、またこれから少し増えるかなという形です。全国2万人の社教委員ということから考えれば800人ですから、まだ大した割合ではないのですが、今後、その社教情報が届けば、それでまた寄附する人が増えるだろう、ついては、その社教情報についても、もっと買ってほしいという話ではあるわけですが、新潟県では県でしか統計が出ていないので何とも言えないのですが、県全体では75号で310冊売れていますので、30市町村と新潟県と考えると31の自治体があって、1自治体平均が10となりますので、ここは11ですから、ちゃんと平均以上には貢献しているなということになります。ただ、他はなかなか少ないところもありますので、社教情報の購入依頼を総会、理事会で言われました。来年の5月で今の役員の任期が切れますので、来年の3月1日に総会がまたあるのですが、そのときに向けて今後の役員体制の見直しがあるということなので、私は幹事を外れるかもしれないということになりますが、それは委員会のほうにお任せすることになります。

(生涯学習センター所長)

新潟市は、社教情報を公費で11部買っていましたので、寄付金は任意ということでお話を以前、させていただいたかと思しますので、よろしく願います。

### 3. 協議事項

#### (1) 第3 2期 新潟市社会教育委員会議 建議スケジュールについて

(雲尾議長)

3の協議事項でございます。第32期新潟市社会教育委員会議建議策定スケジュールについて、事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習センター主事)

資料1「第32期社会教育委員会議県議『学びの循環』による人づくり」策定スケジュール」という資料をご覧ください。第32期の建議策定にあたりまして、今年平成28年度と来年平成29年度までの大まかなスケジュールを記載してあります。まず本日、第3回目ですので、11月7日に記載してあるのが、本日のところになります。それ以前に実施したものにつきましては、ご覧いただければと思います。

次回第4回は、1月18日、またお昼2時からを予定しておりますので、ご予約いただければと思います。場所につきましては、また別途ご案内いたします。内容につきましては、これからまた視察のご案内もいたしますが、そういった視察していただいた結果をご報告いただくという内容が中心になるかと思っております。今年度は3月にもう一回、第5回を予定して最後となります。3月につきましては、現地視察・ヒアリングの欄のところに書いてあるのですが、教育委員との懇談を予定しておりますので、その懇談を踏まえて、第5回目の会議の際には協議をしていただければと考えております。第5回目の日程と教育委員との懇談の日程につきましても、決まり次第ご案内させていただきます。平成28年度は以上となります。

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

2年目の平成 29 年度になりますが、こちらも会議の開催日程は、まだ未定としておりますけれども、おおむね年5回程度で考えております。内容としましては、建議策定にあたって、まず骨子（構成）を協議していただいて、その後、素案を作って最終的に最終案を作り、協議をして、決定をしていただくと。最終的には、第 32 期建議として報告をしていただくというスケジュールになっております。詳細については決まり次第、ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。（雲尾議長）

では、説明ありました資料 1 の策定スケジュールにつきまして、お気づきの点等ございましたら、よろしくお願いいたします。

（生涯学習センター所長）

教育委員との懇談会は、今回初めての試みでございまして、恐らく3月中旬くらいに実施することになると思います。内容的には、時間も限られているので、社会教育全体というよりも、今回、我々が取り組んでいる建議の部分について意見交換するようなイメージで考えております。また、日程が決まりましたらお声がけいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（雲尾議長）

何かございますでしょうか。

（小川委員）

今のところ分かる範囲で決まっていればというか、考えていることがあれば教えていただきたいのですが、9月に西川中学校に伺いましたし、それから子ども食堂の視察ということも、これからお話が出てくると思うのですが、その後、随時、視察調査となっておりますけれども、もし何か今のところこんなことがというのが話していただける部分があればお願いします。

（生涯学習センター所長）

まだ具体的な部分については、これはというものが無いのですが、委員の皆さんの方から、さらにこういうところも視察してみたいというようなお話を頂戴できるとありがたいなということを考えていたのです。本日、雲尾議長から「学びの循環」ということについて、いろいろ教えていただく中で、新たな切り口とか、また新たな視察先みたいな部分の希望が出てくるかもしれませんので、もし思い当たる所があれば、この場でなくても結構ですので、事務局のほうにお申し付けいただければと思っています。

（雲尾議長）

別のところから要請があって、老人福祉施設等にご案内しようかなと思って、今、探しているのですが、老人福祉施設等ですと、そこが障がい者ボランティアの活躍の場になっていることも多いのです。そちらのほうに慰問に行かれるという場合もあるし、それを楽しんでもらうとか。あるいは逆にその施設を活用している人たち自身がサークル化して何か活動したりするような場でもあるということであると、そういったような活動が活発に行われているようなところ等も視察の対象として考えられるかなということでもあるかと思います。

（生涯学習センター所長）

ありがとうございます。確かに私ども、ボランティアバンクというような制度を持っているのですが、派遣先が多いのは福祉施設、それから学校なのです。福祉施設もやはり市民の部分や個々老人の施設に入っているような方たちの気持ちを和やかにするようなボランティアの方がけっこういらっしゃいますので、この辺もまた事務局で検討してみたいと思います。

（伊井委員）

今、私は囲碁のお相手で2か所へ行っています。その一つがデイサービス輝というところです。職員は男性が2人くらい、女性が常時五、六人いていつもものすごく元気なのです。今度、何か別なことをやってくれと言われたけれども、それはちょっと無理だと断りました。その後、南京玉すだれでもやりましょうかということで、そんな話をしてきました。もしかすると若い人が大勢ですから、サークルみたいなものを作っているかもしれません。サークルみたいな、あるいは勉強会みたいなものを行っているか聞いてみます。

(横坂委員)

私は仕事から子育て中のお母さんたちと関わっていますが、新潟市の子育て支援が充実してきている一方、サービス面に重きが置かれて、お母さんたちが育てられる場、育ちあえる場になっているのかどうか疑問も感じます。サービスが増えるときは、自分たちで何とかしようということで、知恵を絞って、そこがお母さんたちの繋がりになっていたのですけれども、今では「行けば何とかしてくれる」ということで、特に繋がりがなくてもいいという傾向になり、一覧表を見て、今日はどこどこを回って、行事のときはここがサービスいいよ、と言いながら回っていたりすると、お母さん同士の育ちあう場がなくなってきました。今、公民館のゆりかご学級でも最終回は、その繋がりをつけようというように公民館は頑張っているんですけども、そういう子育て支援のところにも来ているお母さんたちが、互いに繋がれるようなきっかけがあればより良くなるのではないのでしょうか。全体に関わる総合的なアドバイザーがいればいいなと思います。

(雲尾議長)

先ほど利用のホワイトボードを見ていて、D a i j o b uがあったので、子育てなんでもD a i j o b uなどまさにそういう団体ですよ。もともと子育てサークルだったけれども、自分たちが子育てを終えたところで、今度はそういう人たちの相談を受け、そういう人たちの遊びの場としてD a i j o b uを展開していると。そういった坂井輪地区公民館の事業に限らずほかにも幾つかあるかもしれないですね。

その他いかがでしょうか。では、ありがとうございます。また、何かございましたら、事務局のほうに連絡も入れていただいて加えていくということをお願いしたいと思います。

それでは、協議事項は以上となります。

#### 4. 事例研究

##### (1)「学びの循環」について

(雲尾議長)

本日の建議テーマ『学びの循環』による人づくり」ということでございますので、学びの循環について何か議長のほうから話をせよという話だったのですが、あまり循環にならなかったのですけれども、とりあえず手元にあった資料を幾つか融合させまして、学びをどう活用していくかということでございますので、資料2をご覧ください。多少、字が細かいのですけれども、学びの循環といましては、代表的なものとしてボランティアというものがございます。ボランティアといったような言葉が公によく使われるようになってきたのが、スライド2にございます、生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」というものでございます。こちらの第二部、当面重点を置いて取り組むべき四つの課題の2番目にボランティア活動の支援・推進についてということがあるわけです。この中で、スライドの3、生涯学習とボランティア活動で、特徴として自発（自由意思）性、無償（無給）性、公共（公益）性、先駆（開発）性等にあると。その視点と、第一はボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる生涯学習となるという視点。第二は、ボランティア活動を行うために必要な知識や技術を習得するための学習として生涯学習があり、学習の成果を生かし、深める実践としてボランティア活動があるという視点。こういったようにボランティアと学習というものは循環していくというようなことがこの時点ですでに示されています。そして、人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって生涯学習の振興が一層図られると。こういった意味では循環もありうるということが示されているわけです。

スライド4では、特に、青少年期においては、身近な社会に積極的にかかわる態度を培い、自らの役割を見出す上で、その教育的意義は大きいということで、青少年についてもボランティアについて注目しているというところがございます。

スライド5にまいりまして、活動は主にどういったものがあるのかということで、先ほどのお話にもありました社会福祉の分野のほか、教育、文化、スポーツ、学術研究、国際交流・協力、人権擁護、自然環境保護、保健・医療、地域振興など多岐にわたります。今後の例として、地球環境問題

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

への取組と開発途上国や在日外国人に対する支援などの国際協力の分野、企業等による社会貢献活動といったようなものが言われている。これは92年の話ですけれども、今でもこういったような部分が、ものすごく進展したとも、かえって後退している部分もありますので、こういったようなところも今後も必要だろうと考えられたわけです。

スライド6にございますけれども、評価の視点をどうするかというようなことです。特に後段のほうに社会的評価ということで、どうしていくのかというようなことが言われています。個々のボランティア活動を賞賛し公表すること、ボランティア活動の実績が何らかの資格取得の際に勘案されること、社会全体での調査等によって認識を高めることといったようなことがありうるということです。

現状と課題というものがスライド7にございます。そして、学校ではどうかということで、スライド8にございます。この当時は、まだ総合的な学習の時間というのはなかったもので、道徳や特別活動というものを中心にというようなことが書かれていましたが、その後、この6年後に答申がออกมาして、総合的な学習の時間というものが加わるということが入りましたので、それ以降はどちらかという総合的な学習の時間は中止になってきているかなと思われま。

スライド9ですけれども、ボランティアの学習を深めるため社会的文化的風土づくりというものが課題としてあるというようなこと。

スライド10、ボランティア層の拡大と活動の場の開発ということで、こういった場でやっていくのかといったようなことです。

スライド11、同じような課題では、情報の提供、相談体制の整備充実です。それから、事故等への対応、過剰な負担の軽減といったようなものが言われています。

そして、12では企業における課題といったようなものもある。評価に関する課題といったようなもの。これがボランティア活動の振興に向けての課題ということで上がっております。

一方、青少年のボランティアということもさらにクローズアップしてみていくとどうなるかという、これは特に大きく変化をしたのは、2000年の教育改革国民会議報告、教育を変える17の提案の中の3番目に奉仕活動を全員が行うようにするというものが挙げられたことによります。

これを受けて、スライドの14番にありますように、教育改革国民会議の提言というものが右のようにされています。2週間とか1か月とか、そういったようなことまではありませんでしたが、スライド15にあるように教育3法です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律、学校教育法、社会教育法が改正されてどうなったかということ、スライド16にありますように、学校教育法第18条の2が追加されて、小学校においては、前条各号に掲げる目標の多声に資するよう、これは小学校の教育目標ですが、できるようにということで、児童の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。この場合において、社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならないということで、この学校教育法に社会教育関係団体との関係をきちんとしましょうようと書かれたこと自体は非常に歓迎の話ではあるということが社会教育で分かるわけです。同じように社会教育法第5条に青少年に対し、ボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の機会を提供する事業の実施及びその奨励に関することというのが追加されたということも、市町村教育委員会の事務として加わっているというようなこともありますので、こういったような中で社会教育がいかに青少年のボランティアにかかわっていくのかというようなことも例示されているわけです。

一方、青少年に対して、次は高齢者を見ていくとどうなるかということで、高齢社会白書というものも見てみるとということで、スライド18、高齢者が行っている生涯学習というものは、どういうものを行っているかといったときに、娯楽やスポーツといったようなものです。趣味的なものや教育、レクリエーション、趣味的なもの。家庭生活に役立つものが多いといったような統計がありますが、行われていない理由というのを見ると、スライド19、仕事が忙しくて時間がないというのは非常に多い。特にピンク色の60代です。4割以上は仕事が忙しくて時間がないと。70代になると



### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

16パーセントに下がると。きっかけが掴めない、一緒に学習や活動する仲間がいない。身近なところに施設や場所がなかったり、学習の内容や時間帯が希望に合わないといったようなことが続いていきます。そういう人たちがグループ活動に参加しているかどうかといったときに、参加したことがあるという人は、スライド20、平成5年、平成15年、平成25年と10年ごとに見るとだんだんと参加してきて増えてきているということが分かります。ただ、健康スポーツですとか、それを分けると趣味とか、地域行事とかいったようなもの。こういったようなものに参加したことがあるというのは数字になっているという形になります。

ということで、グループ活動参加による効果というのを見ると、一番上、新しい友人を得ることができたというものです。これを見ましても、男性が45パーセント、女性が52.4パーセントですから、やはり女性のほうが新しい友人作りはうまいというか、男性のほうが友人作りが下手というようなことが分かるわけです。生活に充実感ができたとか、健康や体力に自信がついた、お互いに助けあうことができた等の大体軒並みで女性のほうが高いのですが、次の地域社会に貢献できたというところで見ると、男性が32.7パーセントです。女性が23.1パーセントで、ここで10パーセントくらい差が出ます。男性はやはり地域社会に貢献できたとか、技術や経験を生かすことができたとか、こういったようなものも高く感じたがる傾向があるということです。逆にいうとこういうものを増やせば、男性の参加も増えていくだろうということです。

参加したい団体と参加している団体について見ると、参加したい団体がピンクで参加している団体が多いので、町内会、自治会が参加したい団体ではないのだけれども、参加している団体としては多いというような、それ以外は逆のパターンが多いと。老人クラブの場合もやや参加したいわけではないけれども、参加しているという人が全体の1割くらいかなという感じですかね。

高齢期に行きたい社会参加活動としては、23にあるようなサークル活動・仲間と行う趣味・教養、スポーツ・レクリエーション、習い事、地域行事といったような順番でつながっていきます。

そして、高齢期の社会参加活動のために今すべきこと、していることで見ると、一緒に活動する仲間を作ることが今すべきことだけれども、なかなかそれはできていないということです。地域に友人を作ることとか、地域行事に参加すること。どれもやるべきことなのだと分かっているけれども、それほどできていないということで、結果的に特になくという人が45パーセントくらいという形になっていて、半分弱の人はまだ何もしていないということなので、高齢期の社会参加を増やしていく方法には、今までの統計のようなどころから考えていけばいいだろうということであるわけです。

ということ踏まえまして、社会教育と生涯学習というもので見ていったときに、社会教育の部分は当然にあるのですけれども、生涯学習構造全体があると。この辺はすっ飛ばして、社会教育と生涯学習の共通性もあるのだけれども、やはり大きいのは下のところです。個性原理に立つ生涯学習ということで、生涯学習社会といいながらも、生涯学習は個人の出発点として個人の人間性の豊かな発展を図ることがベースになりますので、学習成果は個人に帰属する部分が大きいと。つまり個人利益のほうが社会利益よりも上回ってくる。要求課題にこたえた生涯学習を行って、学びたい課題が声にして出されるので、一般職による希望聴取でも対応可能であるというようなことです。こういった講座もやってほしいという声があれば、一定数たまわれれば、その講座を開くというようなことをすればいいということになります。一方、共同性原理に立つ社会教育というもので言いますと、学習成果というのは地域社会への還元、社会貢献となりますので、確かに個人も利益を得るのだけれども、地域社会全体で受ける利益のほうが大きいということになります。したがって、社会教育で設定される必要課題というのは、地域の人が学ぶべき課題があると。しかし、それは必ずしも意識されていないので、専門職による課題設定が必要。だれも開いてほしいと言っていない講座だけれども、この地域の人はいったことを学んでみんなで取り組んでいく必要があるといった講座を開く。それは専門職。先ほどの社会教育主事が少ないという話がありましたが、社会教育主事等の専門職による課題設定が必要となってくるということです。ですから、こういう社会教育のような学びの中で学んだ成果を活かしていくことによって、地域社会に利益が還元されていく社会貢献となる。個人もその学んだ成果を活かしたことが循環につながっている。そういった趣旨

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

で、例えば、生涯学習型の循環ではなくて、社会教育と循環ということは必要だろうということがあるわけです。

例えば、新潟市初で非常に広がっていた地域の茶の間などというのものも、ある意味、地域の課題を解決する事業であり、そこで学習成果を活かすということがあまり設定はされていませんけれども、こういったようなところからでも始められるというところがあります。

それから、右にありますように、コミュニティカレンダーというものも、地域の中でのつながりを作っていく仕組みとしてあるわけで、地域の中の味方地区の場合ですと、15の関連団体が、小学校、中学校、幼稚園、保育所や公民館などいろいろなところの団体がカレンダーを一緒に作るということによって、地域の中でのつながりを作っていくというような関係を行ったりしています。

その次の地域からはというスライドですけれども、これは学校の中に地域の人が入るときのポイントを書いたものなのですが、その中でも下の四角にあります生涯学習ボランティアとか、人材バンク等とさまざまあります。こういう方々は自らは生涯学習で培った能力を活かす場としても非常にありますが、そのときによく言われるのがニーズがないという言葉なのですが、ニーズがないという言葉は存在しなくて、ニーズは作り出せる。これが社会教育の大きな力であるというわけです。要するにただ知らないだけで、知らなければ当然ニーズがないけれども、知ってもらえさえすれば、参加してもらえさえすれば、それがニーズとして出てくるのだということが、やはり大きなポイントになってきます。

そういったような中で、そういう活動を続けていくと、それが社会参加であり、社会貢献であり、自己実現につながっていくという状況であるというわけです。そのための具体的手法として、上のほうにあるように、学校や子どもを可能な限り見るとか、知りたいことがあれば学校に聞いてみるとか、少しでもよいかから手伝ってみる。そのことを他者に伝えるということ。広く浅くを目指すという形です。少しでも経験したことをほかの人に伝えれば、フェイストゥフェイスで話が伝わって、ネット社会とはいっても、ネットの情報を見て人はすぐに動けるとは限りません。知り合いがそういう活動をしていることを直接聞けば、それなら自分もできるかなという形で参加者が増えていくということが3点目です。それから、楽しさややりがいを確認するというのは、そういうボランティアなり何なりお手伝いしてくれる方に対しての対応の仕方なのです。その人の楽しさややりがいを確認することによって、その人が自分のやったことをいいことだということの評価されて、またやってくれるというわけです。楽しかったですかと聞くことはあまり効果はなくて、楽しかったですかと聞くと、楽しくないという答えが用意されてしまうので、聞くときにはどこが楽しかったですかというように聞くと、どこが楽しかったかと限定されるので、楽しかったことを探し出してくれるわけです。それで答えてくれる。ああそうか、それは楽しかったんですねと言われると、自己暗示にかかって、ああ私楽しかったんだと思ってくれるし、やりがいもそうですね。どんなところにやりがいがありましたかと聞けば、ちゃんとそういうまじめに手伝いをしてくれる方はまじめに考えて、やりがいを考え出してくれますので、こんなところがおもしろかったですね。やりがいがありましたねという、ありがとうございます、そうですねということ、その人はまた強化されるし、またほかの宣伝活動に使えるということです。そういうポイントが出てきます。です、あとはその提案型です。結局、学校側がこんなことを手伝ってくださいということだけではなくて、ボランティアをする側、人材バンクの人たちはこんなことをできるのだけれどもどうかとか、してみたいことはということ提案して実現していくというような形です。することによってニーズがないではなくて、ニーズがないからできませんではなくて、ではとりあえずやってみましょうということで、知ってもらおうことでニーズを作り出していくということであるわけです。

最後は、生きることのバランスということで、どうも人は左側のサイクルに特化して、これはしかもなるべく働くを短くして、なるべく遊ぶを大きくしたいという人が多いわけですがけれども、でもこの循環だけではなくて、右のほうの循環です。学ぶ、尽くす、育むです。この循環も考えていくとやはり自分の学んだ成果を活かして、そのことによって社会に貢献していくということ。その中

### 第3期新潟市社会教育委員会議

で後進を育てていくということですね。このサイクルも同時に回すということが求められていて、そういうことで車の両輪でバランスを取っていけるということなのですね。これが、大人の場合、非常にやりやすいのです。働くということと学ぶということが同時に存在するので、子供の仕事は勉強だよというように言われてしまうので、そうすると働くのところに学ぶが入ってしまって、学んだらあとは休んで遊ぶだけだということになって、学んだことをどう使っていくかということは、子供の中にまだまだ実感されにくいのです。だから、子供の場合には、右の輪っかというのは生まれにくいのですけれども、大人の場合はそこが切り替わって行って、二つの輪っかを回せるようになるので、この右のほうのバランスを回すことによって生きることのバランスが取れていくということです。

ということで、学びの循環を直接には説明していませんけれども、こういったようないくつかの視点を含みながら進めていければいいかなということで、ボランティア活動の92年、古い話ではありますがけれども、ここで言われているようなことは、未だに同じように効果や課題等は残っておりますので、そういったような観点。子供たちにどうやって学び、ボランティアをつなげていくか。あるいは高齢者層の人たちがどうしていくべきかみたいなどころ。そして、社会教育というものどう活用して、成果を活かしていくかといったようなこと。そういったようなことをまとめてお話しさせていただきました。何かご質問等ありましたらお願いいたします。

(生涯学習センター所長)

事務局で用意した印刷が小さくなって申し訳ありませんでした。あとでまた皆さんにメールでデータを送りますので、そこでご確認いただければと思います。失礼しました。

(雲尾議長)

グラフが分からないくらいですね。小川先生の講演内容と齟齬はございませんでしたか。

(小川委員)

大丈夫です。

## (2) 西川中学校福祉体験学習の視察について

(雲尾議長)

では、西川中学校福祉体験学習の視察についてでございます。報告いただきます前に、地域と学校パートナーシップ事業についてということでございますので、これにつきまして、地域教育推進課から説明をお願いいたします。

(地域教育推進課長)

では、西川中学校の報告がある前に、地域と学校パートナーシップ事業というものは一体どんなものなのかということをお話させていただきます。特に資料はございませんので、お聞きいただきたいと思っております。

第3期教育ビジョンの根幹を貫く考え方として、前期、後期から踏襲していますのが、学・社・民の融合による教育の推進です。学は学校、社は公民館や図書館などの社会教育施設、民は地域住民、家庭、地域の関連団体、企業です。これらの皆さんがそれぞれの役割を担いながら融合することで大きな教育効果を発揮できるという考えのもと、事業を進めています。その学・社・民の融合による教育の中核となるのが、この地域と学校パートナーシップ事業であります。事業には四つの柱がありまして、一つ目は、学校と地域や社会教育施設を結ぶネットワークを作ること。二つ目が、学校の教育活動や課題活動における地域人材の参画と協働です。三つ目が、学校における地域の学びの拠点づくり。四つ目が学校の教育活動の様子を地域に発信することです。これらのことを中心に行っていただくのがいわゆる地域教育コーディネーターという方で、各学校にこの方々を配置して事業を進めています。平成25年度からは、すべての新潟市の市立学校でこの事業が行われています。西川中学校で見ていただいたのは、この二つ目にありました、教育活動の中に充実のために学校支援ボランティアとして地域の方々から入ってもらって事業を行っていくというものでした。例えば、その地域の力をどのように借りているかと言いますと、例えば、事業補助として特技をお

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

持ちの方からゲストティーチャーになってもらってお話を聞くとか、技を見せてもらうということであったり、またそういう方々からちょっとお手伝いをしていただく。例えば、大工仕事をするのでちょっと見てくださとか、ミシンの学習をするのでボランティアとして見てくださとか、そういうことで事業の補助をお願いしているというものがあります。

また、学習支援として、放課後などにちょっと生徒たちの勉強を見てもらっているという事業活動もあります。また、部活動指導として入っていただいたり、学校の教育環境の整備。例えば、お掃除をしてもらったりとか、花壇づくりをしてもらったりとか、そういうものでお手伝いをしてもらったりとか、あとは登下校の見守り活動とか学校行事などの参加ということになります。西川中学校の場合ですと、授業補助という形での活動になりました。この学校では、総合学習の中で福祉を3年生は行っていて、社会福祉協議会の方から来ていただいて、例えば、アイマスク体験だとか、白杖体験、車いす体験などを6月にすでに行っています。こうやって外の方から実際の様子のお話を聞かせていただいたり、体験をさせていただくということで、生徒たちにも学校の中ではなくて、生きた経験ができるという利点があるかと思いますが、この前回見たものは、いわゆる今の老人たちの現状について、こういう様子なのですよという寸劇を含めて見ていただいています。この中で、中学生が地域のために何ができるかを考えた活動にしていきたいというような学校の願いもありました。これまで、たくさんの方々から学校に入っていただいていますけれども、最近の傾向としましては、来ていただくばかりではなくて、自分たちも今度は地域に出て行って、何か貢献活動を行う地域の担い手として成長していくと。小学校から中学校に上がるにつれて、そういうふうな事業が組み込まれているというような現状があります。このようにして、また西川中学校の例を振り返っていただければと思います。よろしくお祈りします。

(雲尾議長)

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、何かご質問等がありましたらお願いいたします。

それでは、西川中学校の福祉体験学習につきまして、まず事務局より概要説明をお願いいたします。

(生涯学習センター主事)

お配りしています資料3に西川中学校の福祉体験学習の記録をお配りしてありますので、そちらも参考にしながらご覧になってください。

視察に行ってきたのは、9月8日(木)です。西川中学校の3年生約100名を対象にしました体験学習ということで、認知症について学ぶという講座でした。今、見ていただいている写真は始まる前の様子なのですが、ステージの前に生徒が座って、我々はこちらに椅子を用意していただいて座っているのが委員と事務局を含めました我々9名です。生徒たちの後ろに席を設けていただきまして、こちらで視察をいたしました。私たちの後ろに、こちらは普段は給食を食べるスペースだそうなのですが、こちらに大洋紙が準備されておりまして、後半はこちらに移動してグループワークを行ったという全体のプログラムです。まずは、認知症のミニ講座についてということで、講師の方が認知症についてまず説明をされました。それについて生徒が座学でその説明を聞きまして、認知症について認知症がどういうものかということ学びました。

続いて、ここで寸劇が入りました。寸劇をされている方は、プロの劇団の方ではなくて、地域の社会福祉施設の職員ですとか、デイサービスセンターの職員の方とか、普段は福祉の仕事をされている方が劇にして、認知症とはどういうものかということを知りやすく伝えていただきました。真ん中にいるのが、認知症のおばあさんの役の方で、自分がお昼に食べたものも分からなくてというような様子を劇にされて、分かりやすく伝えられていました。前半の寸劇が終わったあとに、西蒲区でされている取組みだそうなのですが、認知症サポーターというのがありまして、高齢者見守りキーホルダーというものについての説明がありました。こちらは、認知症ということで登録をしますと、キーホルダーが交付されまして、万が一、そういった認知症の方が徘徊と申しますか、いなくなってしまうときにも、この番号を問い合わせると、どここのだれだれさんか分かるといったキーホルダーの制度があるという説明がありました。その後で後半の劇が始まったわけなのです

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

が、実際に認知症として徘徊されてしまったおばあちゃんが、このキーホルダーをつけていたことによって発見されて、最後は家族のもとに着いてよかったよかった、めでたしめでたしという寸劇が行われました。そしてこの寸劇のあと、〇×クイズとしまして、今まで見た認知症について簡単に5問程度だったと思いますが、生徒が〇と×に分かれて移動していくといった〇×クイズが行われました。問題は、認知症は脳の病気である〇か×かといったような問題が出されていました。正解は〇と。

これが終了しまして、3時ごろからグループワークということで、生徒たちがあらかじめ決められたグループに分かれまして、座ってグループワークをしています。生徒たちのグループ一つ一つの中に、このボランティアのスタッフの方たち一人ひとりが入りまして、議論が活発になるように入られて進めていました。その様子を見ていただいております。最終的に各班でまとめた内容は、こういった大洋紙にまとめまして、発表という時間が設けられまして、全体の中から四つか五つくらいのグループが選ばれまして、発表をしていました。

以上で終わりまして、最後、閉会となったわけなのですが、このキャラバンメイトに参加した職員の皆さんが自己紹介されまして、最後、終わりになりました。見ますと、地域包括支援センター西川の職員ですとか、こういった施設の方たち合計13名で福祉体験講座が行われました。概要としては以上です。

(雲尾議長)

ありがとうございました。視察されたのは小川委員と神林委員となりますが、報告4、5をご覧ください。神林委員はご欠席ですので、報告5をもってご報告に代えさせていただきます。小川委員より報告4に基づきましてお願いいたします。

(小川委員)

お話ししようと思ったことは、事務局が全部話してくれましたので、気がついたことを幾つかお話ししますと、例えば、次第の裏面を見ますとタイムスケジュールとありますけれども、このタイムスケジュールを見ますと右側に括弧でお名前が書いてあるのですけれども、これが職員の方々なのです。つまりこの何十分かを進めているのは、基本的には学校の先生やコーディネーターではなくて、ここのキャラバンメイトという地域の社会福祉施設の職員の方々がミニ講義をやったり、もちろん寸劇の役者も全部そうですし、それから〇×クイズなどもそうですし、グループワークを10グループくらい作っていました。そこに入って中学生の生徒たちと司会役というのでしょうか、進行を務めたのも福祉施設の職員がやったと。ということは、これは後で鶴巻さんに伺いましたけれども、相当、打ち合わせが大変でしたよねという話を聞きましたら、4年目とか5年目とかということなので、最初はだいぶ大変でしたけれどもみたいな話もありましたけれども、内容としてはこの講座としてはだいぶ練られていて見えて非常に面白かったです。

それから、学校のカリキュラムとしても、この1回で終わりではなくて、だいぶ、何回か連続があって、今までにいろいろな学習をしてきて、そこにも支援ボランティアの方々に何度も入ってもらっていると思いますけれども、なおかつこの認知症サポーター養成講座が終わった次か次の次くらいは、地域のまさにこれを含めた福祉施設に職場体験に行くと。そういう全体のカリキュラムが含まれていますので、なかなかよく考えられた一連の流れとしてもそうですし、1回の講座としてもなかなかよく考えられた講座だなと思いました。

それから、中学生がグループワークをやっていたけれども、最初、大丈夫かなと思って見たのですけれども、意外と活発にああでもない、こうでもないといって、福祉施設の方もうまく進めていらっやいましたけれども、これも鶴巻さんに伺ったところ、最近、体育祭があったので、生徒たちの間でもまとまり感みたいなものが出てきた部分も影響しているでしょう。だから、この時期の設定もすごくよかったのかもしないですね。ちなみに私もここにいたということで、認知症サポーターのリストバンドをいただきました。ということで、簡単ですが、報告させていただきます。ありがとうございました。

(雲尾議長)

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。あまり本筋と関係ないですけれども、3年生でこれから職場体験というのも最近は減ってきているのですよね。最近は職場体験2年生ですので、3年生はもう受験体制になりますね。そういうものは先にやっけてしまおうというパターンが多いので、西川はまだ3年生で頑張っている。

(小川委員)

3年間で総合学習をけっこうしっかり組んでいるので、一回、それが出来てしまおうとなかなか動かせないですね。びっくりするほど大きな校舎でした。

(雲尾議長)

100人というのを聞いて、今、逆にびっくりして、昔、全校生徒が500人とかいましたからね。

(小川委員)

たしか新潟市の学校で最も大きいか2番目に大きいかと話をされていましたが、市立学校の中では一番か二番に大きいのではないかという話でした。

(雲尾議長)

それこそ15年くらい前だと1学年150人以上かな。減っているのでしょうかね。

(小川委員)

3クラス101名とか。

(雲尾議長)

その他いかがでございましょうか。男女分かれてのグループワークについては何か聞かれていますか。

(小川委員)

聞いていないですけれども、年齢的な問題じゃないですか。思春期なので男子同士、女子同士のほうがやりやすいとか、そういうことではないのかなと思いましたけれども、特にそれは聞いていません。

(渡邊委員)

そのとき認知症か、認知症でないかの区別というのは、何か講座ではありましたか。

(生涯学習センター主事)

疑いが見えたらお医者さんに行きましょうというお話だったかと思います。

(渡邊委員)

実際、認知症の人が徘徊を現実に行っているんですよ。また、同じ老人クラブの人でも認知症でないかなという方もいらして、その人を温かくみんなで迎えて、みんながうすうす感じながら、メンバーとにかく元気出さないよというようなことでやっているのですけれども、実際に南区の警察署や交番から私たち大通コミュニティ協議会に連絡が入って、認知症の方が行方不明になったということは、これで2回目です。そのとき、どうやって見つけるかというのがありまして、私のところはすぐ老人クラブの主だった幹事を通じてメンバーに報告するというのと、もう一つは自治協議会です。うちの自治会はネットワークを持っていますから、そこで全部報告してとにかく見つけたら報告というように、瞬時にとはいきませんが、そのように協力体制は作ったのです。先ほどお話を聞いていて、リボンをつけて分かったというのが本当にいいことだなと思いました。今、携帯で安否確認やで位置情報が分かるようなものが、みんながみんな本当に持っているのか。新潟市のほうで対応制度があって、奨励しているようですけれども、実際にどの程度やられているのか全然分かりません。その辺、これからどんどん大きな問題になってくるかなと。そうすると、その辺も生涯教育の大きなウェイトを占めてくるのだなということを今、思っています。

関連して申し上げますと、昨日、講演会があって、障がいのある人もない人も共に生きるまちづくりという条例ができたばかりだそうで、その内容について、どのように解釈するか、あるいはどうあるべきかという講習会を昨夜、聞いていたのですけれども、そうするとこれから思ったことは生涯教育のコアになる部分というものをどのように持っていったらいいかということ、たくさん目標があって学校教育や青少年教育や社会人教育とかいろいろあるでしょうけれども、そのまた真ん

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

中になるのが何だかなと考えさせられまして、これは私自身の課題かもしれませんが、これから学びの循環の中でベースとしては、どこに中心を持ってくるのかが少し気になりました。そういうものを含めて今、お聞きしました。

(小川委員)

今ほどの話だと、要はキーホルダーをつけて、そのキーホルダーにナンバーがあるのですが、自己申告でしたよね。自己申告でキーホルダーを持って歩いている人がいたら、ぜひ声をかけてください。あるいは警察に連絡をいただいて、何番の方がここにいらっしゃいますという形で、リボンという話もありましたけれども、それで強制的にやるわけではなくて、心配なご家族などがそういうものをもらって、おじいちゃん、おばあちゃんにつけておいて、そういう形で見分けをしているという話がありました。

(渡邊委員)

それを見て中学生が登下校時に地域の人とすれ違う機会が多いわけですから、有効な取組だなと思っています。

(雲尾議長)

その他いかがでしょうか。ありがとうございます。それでは、(2)を終了します。

### (3) 西地区公民館コミュニティコーディネーター育成講座について

(雲尾議長)

まず、中央公民館から説明をお願いします。

(中央公民館長)

それでは、中央公民館からこの事業全般について、最初に説明させていただきます。コミュニティコーディネーター育成事業については、市長マニフェストに掲げられている事業の一つです。平成24年度から公民館で始まり、平成25年度からは全8区の公民館でおおよそ10から11の公民館で開催しています。何をやっているかということ、公民館の大きな目的の一つである、地域の課題に取り組む人材の育成を支援しようということです。簡単にいえばまちづくり支援ということになると思います。具体的には、平成27年度に、北区では豊栄地区公民館がコミュニティビジネスの入門ということで、来年度、コミュニティ事業NPOを立ち上げようということになっています。東区では、地域デビュー育成講座。鳥屋野地区公民館では、集まれ！わが町未来応援隊。江南区の亀田地区公民館では、資料で読み解く大江山の歴史。横越地区公民館ではコミュニティ活動の現状と活動紹介という講演会。秋葉区では若い人を対象にした秋葉で夜会。南区ではプロから学ぶ広報紙の作り方。西区では坂井輪地区公民館で地域デザイン講座。そして西地区公民館では、これから説明をさせていただきます、うちの発掘ふるじょくと。西蒲区では巻地区公民館で地域の未来デザイン塾。これは観光振興、まち歩きみたいな事業をやっています。自治協議会、コミュニティ協議会、そういうところの役員の方を対としたスキルアップ、それからお互いの人脈づくりみたいな目的の一つと、将来のまちを担っていく特に若い人を対象にした人材育成。この二つが目的になるかと思っています。中でも、今日発表させていただきます、西地区公民館については、主に新潟大学の学生ですとか、地域の若い方を対象に事業を進めていくということで、この事業の中核的な事業の一つとなるかと思っています。

それでは、これから具体的な内容を説明させていただきます。

(西地区公民館長)

西地区公民館の館長をしております前田といいます。

今、お手元にピンク色と緑色のチラシがあるのですけれども、特にこのピンクのチラシについて説明させていただきたいと思います。平成28年度「うちの発掘ふるじょくと」という講座は、平成27年度にスタートしております。当初、立ち上げのときから雲尾先生に準備会のメンバーに加わっていただき、この名前も、みんなで集まって「うちの発掘ふるじょくと」にしましょうと準備委員会の中で決まったものです。

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

最初の問題意識としては、人口減少、あるいは少子超高齢化ということが問題意識の中にあっりまして、まずこの講座に集まった参加者が主体的に地域を元気にするためのまちづくりを行いましょいうことが1点目の目的です。2点目は、こいう地域づくりを通してコミュニティコーディネーターとしてのスキルを身につける。つまり人づくりです。3点目として、地域住民が地域に愛着を持ってともに考え行動する気運を醸成するということで、まちづくりをするためのきっかけづくりを行いたいなというところで掘り起こしたところす。次に、内容についてですけれども、内野をフィールドにしているのですが、たまたま内野ではまちづくり協議会という地元の組織が平成28年度に新しく発足したという契機があっりまして、まだ立ち上がったばかりで、その問題とともに考え行動するというのがこれからという段階でしたので、ぜひ発掘ふるじょくとという講座を契機に一緒になって考えてもらえればなということで始めたものでございませう。平成27年度から取組を始めたのですが、主な内容は、内野の地域資源、宝を発見・発掘して、その地域資源を活かしたまちづくりの企画、実践を行うというものでございまして、第1回、第2回、第3回の成果発表会は来年の1月21日に予定しているところす。また、情報交換会も2回やることにしておりまして、ちょうど今夜、みんな集まって第3回の成果発表会に向けた打ち合わせをしようかなと考えているところす。

対象者は、どなたでも、あるいは内野をもっと知りたい人と書いてあるのですがけれども、当初は40代くらいまでの若い人にしましょいう話で募集をかけたところ、なかなか集まらないし、最初に電話をもらった人が60代を超えていたので、後半はどなたでもとしました。だから、若い人もいるし、特に大学生などいますけれども、お年寄りの方もいるということになっております。

現在の参加数は27人、地域住民の方、大学生、行政職員、そのほかとなっております。主催は、西地区公民館、西区役所の地域課というところと一緒に連携してやっっているところす。今年の春に立ち上がった内野・五十嵐まちづくり協議会というところが共催をしています。NPO法人まちづくり学校という団体が協力してくれていて、一番下に※印があっりませうけれども、ここが一番大事だんと思っっていますけれども、成果発表した後、参加者などによる意見交換会の開催ということで、発表後、参加者、あるいはまちづくり協議会の人たちも入れた中で反省会をして、今後の展開、あるいはもしかしたらグループ化とか、あるいはまちづくり協議会へどうつないでいくかみたいなものを話し合えればいいんと思っっているところす。

成果発表会ですけれども、年が明けて1月21日に13時30分から17時まで、内野まちづくりセンターが10月末に新しくオープンしたところす。3階のホールでやりたいんと思っっております。200席あるので、半分以上は埋めたいんと思っっていますので、興味ある方はぜひご参加いただければなと思っます。プログラムとしては、1時半からスタートするのですがけれども、そこに1時45分から基調講演ということで、雲尾先生にお願いしているところす。地域の資源と活用について講演していただければな。雲尾先生は、内野中学校のPTA会長もされているので、そんなことも含めて基調講演をお願いできればということす。その後、成果発表ということで、1番から8番まであるわけす。こいう方々が成果発表する中で、参加者と意見交換取れるような形で発表していきたいんと思っっております。今日、スライドで発表していただくのは、8番の内野暮らしBookプロジェクトというところを発表させてもらおうかと思っっているところす。

宮崎県出身のコメタク（米炊く）さんということで、吉野さくらという覚えやすい名前の方から発表していただきます。よろしくお願ひします。

(吉野)

皆さんこんにちは。初めましての方もたくさんいらっしやいます。今、館長から紹介していただきました、コメタクという名前内野町で活動しています、吉野さくらと申します。

今日はうちの発掘ふるじょくとの中で、私たちが今、作っっている内野暮らしBookというものについての紹介をさせてもらいたいんと思っっています。緑色の事業計画書と書いてあるプリントは、内野暮らしBookを印刷する資金をどうしようかということで作成した事業計画書です。今日は、



### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

この内容も含めてお話しします。

内野暮らしBookを作るにあたって、私たちコメタクがなぜそういうことに行き着いたのかということも紹介したいなと思ったので、少しコメタクについての紹介を先にやらせてもらいたいと思っています。

私たちは、昨年2015年の4月に内野町に暮らしはじめまして、今、お米屋さんをやっております。内野町にもともとあった飯塚商店というお米屋さんと一緒に米の販売などをやらせてもらっています。コメタクは私以外にもあと2人いて、3人で活動しております。私が先ほども紹介していただいたのですが、宮崎県出身で、井上有紀ちゃんという子が東京都出身で、堀愛梨ちゃんが福井県出身のこの3人で活動をしています。それぞれ新潟大学に行っていたわけでもないですし、新潟出身というわけでもないのですが、昨年の4月に移り住んできて、今、一年半くらいたったところです。

内野町に来たきっかけとしては、内野駅前にツルハシブックスという本屋さんがあったのですが、その本屋さんがそれぞれきっかけです。いろいろなタイミングでおのおのがツルハシブックスに行く機会があって、そこで内野町におもしろい米屋さんがあるよというように紹介していただいたのが飯塚商店です。おもしろいところも米に対するこだわりであるとか、飯塚さんの話を聞いた後に食べるお米がすごく楽しかったのですよね。お米を毎日、皆さんも食べてらっしゃるかと思うのですが、当たり前すぎて、お米にそんなに関心がなかったのです。私も実家が農家なので、米は常に父親が作った米だからおいしいと思うくらいで、特に愛着もなかったのですが、飯塚さんに新潟の米についていろいろ聞いた後に食べたお米がすごくおもしろくて、日常の食卓が楽しくなったのです。米がおもしろいと。ああ今日もうまく炊けたとか、今日はいつもとより固いかなんかと思いつつながら食べるのが、食事が楽しくなって、これをもっと私は大学時代など知りたかったなと思ったのです。大学卒業後に内野町に移り住んできたのですが、大学生たちにも紹介したいなという思いもあって、今、コメタクという名前で、お米もいろいろなところで炊いたり、飯塚商店で実際、お米を食べたりするイベントを開く活動をしています。

何をしているのかといいますと、八十八のおとも研究所という名前の朝ごはん会を毎週土曜日に開いています。参加者は大体、新潟大学の学生さんであるとか、内野町周辺に住んでいる若手の社会人の方が多いです。あとは地元の人たちも顔を見せてくれたりします。先週77回やりました。今週の土曜日で78回目になります。

飯塚商店のお米を買える人たちが増えるといいなということで、ウェブ販売を今までやっていなかったところを私たちが代理店という形でウェブ販売させてもらっています。

内野で開かれる紹介のイベントなどでおにぎりを販売して、新潟大学の学生さんに手伝ってもらったりしています。

これは、昨年の水と土の芸術祭の市民プロジェクトの一つとしてやらせてもらったのですが、みんなにとって商店街のお店って、なかなか大学生は特に、少し入りにくい場所であるかと思っています。近くにあるスーパーのほうが、行って、そこに行くだけですべてのものがそろって、便利だし、24時間やっているしということで、コンビニだったり、スーパーに行く人が多いと思うのですが、そういう人たちがどのようにしたら米屋に来てくれるだろうか、どんな米屋だったら来たいと思えるだろうかということと一緒に考えてもらって米屋づくりワークショップというものを開きました。このようにみんなでアイデアを出し合って、その結果、こういうものがあつたらいいよねと思ったものをその場でみんなで作っていました。そのときには、本やもっとみんなが立ち寄れるようなスペースがあるといいなということも言ってくれたので、みんなで本棚を作ってお店に置いていたりということをやってきました。

あとは西地区公民館を使わせていただいて、地域のお母さん方に郷土料理と家庭料理を学ぶ花嫁修業という料理教室を開きました。新潟大学の学生さん20人くらいが2回の講座で40人が参加してくれました。これも西地区公民館を使わせていただいたのですが、出汁の講座を開きました。内野町にもともとある大口屋という海産物屋の店主の大口さんに協力していただいて、若い人たち

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

にも出汁を使って何かを作るという食文化を伝えようという講座をやらせてもらいました。

あとは内野中学校の1年生、大体合計で50人くらいだったと思いますけれども、お米の食べ比べをする講座を昨年開きました。ここですごくおもしろかったのが、新潟の西区のお米と魚沼のお声と岩船のお米を食べ比べしたのですけれども、どのお米かを全く内緒で食べ比べてもらったところ、ほとんどの子が、どのお米が好き？と聞いたら、西区のお米に手を挙げたのです。それがすごくおもしろくて、しかも理由が、給食のお米と似ているとか、家で食べているお米と似ているということがすごくおもしろくて、彼ら、彼女らの感覚の鋭さにもびっくりしましたし、やはり生まれ育ったところのお米がおいしいのだなということもおもしろかったです。その彼ら、彼女らに西区の今、自分たちが一番おいしいと思ったお米を人に紹介するのはどのように紹介しようかというキャッチフレーズを考える小さなワークショップも同時に開きました。

こんなことをしてきたのですけれども、内野に来てみて私たちが感じたのは、最初はツルハシブックストア飯塚商店というお店しか知らなくて、内野にひかれたというよりは、飯塚商店にひかれて移り住んできたのですけれども、ほかの内野町にあるお店であったり、内野に住んでいる人たちに1年間お世話になって、いろいろな話をしていくうちに、私たちは内野での暮らし自体を紹介していけたらいいなと思えるようになってきました。なので、私たちは今、内野暮らし研究所という名前をつけて、内野の暮らしをみんなに体験してもらうような小さなツアーみたいなものも開いています。飯塚商店でまずお米、今日は何を食べたいかお米を選んで、そのお米が炊きあがるまでの間に内野町のまち歩きをしてもらいます。内野町でいろいろなご飯のおかずを買ったり、まちの人たちと話して戻ってきて、炊きあがったご飯と一緒に食べるという内野の暮らしを体験してほしいなという研究所を開いています。

その研究所を開く場所を飯塚商店内に作るために、私たちはクラウドファンディングという手段を使いました。ネット上でお金を集めるという寄附みたいな形なのですけれども、私たちの活動に賛同してくださった人たちからお金をいただいて、それを活動資金として内野暮らし研究所を作るための場所を作りますというように募集をしました。最終的に、ネット上だけでなく、まちの人たちからも直接お金を寄附してくださる方もいらっしゃって、合計で160万円集まりました。そのお金を使って内野暮らし研究所を開く、みんなでご飯の食べ比べをするための場所、こういう場所を飯塚商店内に作りました。そのことに関しては、西区だよりも載せていただいて、今、ちょうど配られている西区だよりも載せてもらったのですけれども、このようにいろいろな方にお世話になって、今、内野暮らし研究所を開いています。

これはすごい好きな写真で、飯塚商店のおばあちゃんのフミエさんと隣に住んでいる佐藤さんという方が、内野暮らし研究所の拠点場所沿いにお話されているのがすごく好きで、飯塚商店の従業員さんとか、もともと営んでいらっしゃる飯塚さんたちにも愛される場所を作りたいと思ってやっています。

そんな私たちがうちの発掘ぶろじゅくを通して作りたいものというのを説明させてもらいます。この内野に対して、私たちはすごい好きだなという気持ちがあるのですけれども、好きというのをなかなか共有できる手段がないなと思っていました。特に内野町は、私たちは暮らしてみてもすごくいいまちだなと思ったのですけれども、だれもが来たくくなるような、すごく目立つ観光資源があるわけでもないですし、大きい会社が建っていて、みんながあそこに働きに来るなどということもなかなかないです。新潟大学も近くにはあるのですけれども、内野町まで下りてきて買い物をしたりとかしてくれるかという、そうではないことが多いなと思っていました。まず内野町に来るというハードルを下げるにはどうすればいいのかなということを模索しているときに、うちの発掘ぶろじゅくに参加をさせてもらいました。そこで、いろいろな内野町の現状であるとか、私たちが今までやってきたことを掘り返して考えているうちに、本を作ろうという話になりました。内野の暮らしを紹介する、若い人の暮らしやまちの人たちの暮らしを紹介する内野暮らしBookというものを作ろうということになって、今、活動をしています。うちの暮らしBookを読んでほしい人は、まず内野に一番近い新潟大学の大学生に読んでほしいです。あとは内野にもともと暮らしている人

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

たちにも読んでほしいなと思っています。読んだことで、こんなことが起きたらいいなと思うのは、新潟大学の学生に関しては、内野に住みたくなる、内野で活動してみたくなるといいなと思っています。内野に元から住んでいた人たちに関しては、内野にこんな若い人たちが住んでいるのかとか、内野に興味を持っている人たちがいるのかということを知ってほしいなと思います。あとは若い人、そういう興味を持っている人たちに内野の自分たちにとっては当たり前かもしれない暮らしの中の文化や知恵を伝えたくなくなってもらえるといいなと思っています。

今は、私たちコメタクとプラスで新潟大学の大学生と内野町出身の方にチームに入ってもらって、一緒にやっています。内野町出身の方は、すごく歴史に詳しいので、歴史の部分私たちの知識としてフォローしてくださっていて、一緒に加わってくれている新潟大学の学生は、私たちが一番届けたい相手に近い存在なので、彼女にいろいろなアイデアを出してもらって、一緒に活動をしています。今は取材をしているところで、内野暮らしBookに載せる冊子の内容としては、事業計画書の裏にも書いてあるのですが、内野の買い物情報であるとか、通学路という視点でいった地図。内野町から新潟大学に行くまでの通学路を紹介することで自然と地図を載せることにもなるなという話をしています。

あとは内野で活動している人たちのことを紹介したいということと、内野のまちの人たちに、まちの中に住むお気に入りの人を教えてくださいというようにお願いしていて、それをどんどんリレー方式で紹介していくことでどんな人が生活しているのかということを知りたいなと思っています。内野で暮らしていくには、どういう服装がいいのかみたいなことを紹介していきたいので、私が新潟に来てびっくりしたのが、意外と内野って雪が降らないんですね。九州からするとずっと新潟ってすごい雪が降ると思っていたのです。でも、意外と降らないなということもあって、でもその代わりすごく風が強いとか、そういうことは大学1年生の頃って全然知らないと思うのですよね。まだ、受験くらいでしか来たことない子が多いと思うので、そういう子たちに伝えるために、ポップに伝えたいなと思って、ファッション紹介という形で気候が感じられたらいいなと思います。あとは歴史もしっかりと紹介したいので、歴史のコラムとライフライン情報ですね。病院や公共施設がどこにありますよということ載せていきたいなと思っています。

いろいろな意味で内野のことを知らないという人に届けたいということで今、作っています。情報として、知識として全く知らないという新潟大学に入ったばかりの子たちであるとか、あとは住み慣れてしまって、内野というまちに暮らしていることが当たり前になって、実は知らないことがたくさんあるということにもしかしたら気づいていないかもしれない。もうすでにずっと暮らしている人たちにも何か届けられたらいいなと思って活動しています。すごい紙面はどんどんでき上がって、取材も進んでいるので、あとは資金面をどうしようかという話をしながら、今は進めているところで、そこも報告会が1月21日にはあるのですが、そのときまで印刷をして、新潟大学の学生にお配りしたらいいなと思っています。こんなことをうちの発掘ふるじえくを通して活動しています。ありがとうございました。

(雲尾議長)

ただいまのご説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。

(横坂委員)

すばらしいと思いました。

(西地区公民館長)

彼女が最初に考えたのは、やはり人口減少とか、少子超高齢社会という中で、内野の旧まちというのは、けっこう一人暮らしの世帯が多くなってきていて、大学生は下宿等で山の上のほうにいますけれども、聞くところによると大学とその下宿を往復する毎日で、内野のまちには祭りがあったり、いろいろなイベントがあってけっこうおもしろさがあるのです。ですから、大学生にこちら住んでもらって、一人暮らしの老人がいるときに見守り関係になるのではないとか、まちづくりの起爆剤になれば良いという思いがあったのです。そこで、実際に冊子を作るための財源をどうしようかということ、今、悩みの種ですが、1月21日に八つのプロジェクトがあるのですけ

### 第3 2期新潟市社会教育委員会議

れども、みんな内野をよ〜く知るプロジェクトとか、いろいろあるのですけれども、そういったものを発表させてもらおうかと思しますので、ぜひご参加いただければと思います。

(生涯学習センター所長)

吉野さんにとって公民館はどんな存在でしょうか。今、公民館に若い人がなかなか足を向けてくれないという状況があるのですけれども、吉野さんにとって、この事業を通してでもいいですし、公民館はどんな存在なのかなということを教えていただければと思います。

(吉野)

私も、自分の大学時代を振り返ると、なかなか公民館に行く機会がなかったなと思うのですけれども、今日、発表したうちの発掘ふるじょくと以外に西地区公民館で行われている「うちでないと」という内野でないと学べないことを学ぶ講座があるのです。内野に住んでいる人たちを講師に呼んで、その方たちに何かを学ぶという講座に、内野に移り住んでからすぐ、昨年5月に参加して、そこで初めて内野町にかかわっているほかの大学生や若い人たちであるとか、内野にずっと住んでいる講師の先生たちとの出会いがあって、そういう意味で特に「うちでないと」はおおむね二、三十代の人たちという参加枠にしている、そういう枠にすると若い人たちってけっこう集まるのだなと感じて、事業にもよると思うのですけれども、いろいろな世代が交流することが大事なものであれば、年齢制限はないほうがいいと思うのですけれども、もし若い人に公民館に来てほしいということで参加を絞るのであれば、そのように年齢制限をつけることで、私たちの世代は行きやすくなるのかもしれないなと思って、そこでできたつながりなどを通して内野に遊びに来てくれて、ほかの世代とつながれるとなると、私としては、西地区公民館が開催していた「うちでないと」というものが、初めてかかわるきっかけになったので、それはすごく、そこで知った人たちもたくさんいたので、とてもいいなと思いました。そこに参加していた新潟大学生も多かったのも、彼ら、彼女らにとって、公民館はある意味近い存在である人たちもいるのかなとは感じました。

(生涯学習センター所長)

ありがとうございました。

(伊井委員)

今、何かやると、7:3の法則で、ほとんどが女性なのです。年は大体70歳前後。何とかして男の人を引っ張り出すいいアイデアってありませんかね。

(吉野)

確かに公民館に行ってすれ違う方はけっこう女性が多いなとは思っているのですけれども、例えば、講師とかという立場だと男性は来やすいのでしょうか。参加者というよりもどうなのでしょう。一参加者として来やすい人がどれだけいるのか考えます。私の身の回りでお世話になっている方たちも、なかなか70代という年代の方でも公民館と接点があるかということとそんなにないなという印象があります。そういう70代とかの男性に何か教わりたいと思っているような私たちみたいな世代はいると思います。出汁講座をやってくださった大口さんも70代なのですけれども、その世代だからこそ持っている知恵や文化を教わってみたいという他の世代はいると思うので、そういうところから参加が増えていくと、ほかの年代も巻き込んで増えていくのかなということは少し思います。

(伊井委員)

今、新潟市の中で一番一人住みの世帯の多いのは、たしか信濃町なのです。安全とか何かのことも考えて、男性か女性か分からないけれども、その人たちが出やすくするのに学生さんたちの力を借りるとするのは良い方法だと思いました。参加してもらって何かいい工夫をするというのだけという話もあったのだけれども、全然いいアイデアがないものだから、何かうまい方法があれば教えてもらいたい。参加しやすいアイデアは何かありませんか。

(西地区公民館長)

こちらが大口屋さんに出汁の出し方を教えてとお願いする。要するに出番を作っていると。

(伊井委員)

お願いしなければだめですね。結局行って。

(吉 野)

そうですね。その後に大口屋さんのところに大学生が自分たちだけで行けるようになったのが大きかったなと思っていて、私たちが紹介して連れていくのではなくて、講座で触れ合った子たちが自分たちで足を運んでくれるようになった。それが大口さんの場合はお店ですけれども、例えば、何かの知恵を持っている一人世帯の人たちに先生となってもらって、交流が生まれたら、私たちとしては、大学生が内野町に下りてくるきっかけになってくれたらいいと思いますし、ここで私たちを通さずに交流が生まれるきっかけを作れるのは公民館やほかの施設で行われる講座というものも、すごく力があるのかと思います。

(伊井委員)

ありがとうございます。

(雲尾議長)

その他いかがでしょうか。

(生涯学習センター所長)

感想なのですけれども、今、学びの循環というようなことでいろいろ事例を研究しているのですけれども、まさに学ぶことによって人の輪が広がっていく。そしてまた人の絆が繋がっていく。また次のステップとして、学んだ方が口コミなり、人に教えたりすることによって、学びの輪が繋がっていく。そういう意味で、今、人と人とのつながりが薄くなりがちの中で、まちづくりを通して人の輪が広がっていくというようなことで、いい事例を聞かせていただきました。ありがとうございました。

(齊川委員)

県外から新潟市、それも内野町にいらっやいまして、新潟市の魅力、内野町の魅力は一体なんですか。

(吉 野)

内野町に関しては、本当に暮らしてほしいなと思うのですけれども、魅力が分かりやすいまちではないのです。だれから見ても魅力を感じるまちというのは『るるぶ』であるとか、旅行雑誌に載っているまちしかないなと思っていて、伝統的建築物があるとか。そういう観光で来た子たちに、私たち、今、住んでいる人たちが、どのように自分たちの暮らしを自慢できるかということはずいぶん大事だなと思っていて、最近も私の友達やコメタクのかかわりを持っている人たちが県外から遊びに来てくれることが多いのですけれども、その人たちはコメタクを目当てに来て、内野町しか回らずに新潟を出ていくことが多いのですけれども、それでもなぜかすごく満足していつてくれるのです。その要因を聞くと、あそこのおじちゃんと話せてよかったとか、あそこで買った味噌が幸せだったとか、そういう話を聞かせてもらえることが多くて、私たちは暮らしを見せているだけなのですけれども、内野町に関してはそこしかないのかとも思っていて、当たり前にあるものをこちらの人たちが自慢してくれることが私はすごくうれしくて、自分のまちがこんなに好きなんだよということをおじちゃんとの出会いやおばちゃんとの出会いがあるだけで、来てくれる人は満足して帰っていくのだなということを感じることがあって、新潟市に関していえば、九州の私からすると、すごく四季がはっきりしているというのがうれしいです。新潟に来て、初めて春がうれしいと知ったので、それまでは九州にいたので、ずっと春みたいな、ここからするとずっと春みたいな天候というか、寒い寒いなのですけれども、雪解けや春が来て芽吹く緑の美しさみたいなものを感じたことがなかったので、ずっとどこかしら緑という環境に育っていたので、そう考えるとすごく四季がうれしい、特に春がうれしいというのが新潟市に暮らしているの魅力としては、一番感じます。それは、特に九州に住んでいる子にはすごく自慢をしています。

(齊川委員)

ありがとうございます。よく新潟の人は、自分の新潟という土地を宣伝下手というか、いいとも思っていない。でも外から見るととてもいいというように言われているのだけれども、そういうところに気づかせてくださったという面で、今日、楽しいいい会でした。ありがとうございます。

(横坂委員)

今日の発表からいろいろな刺激をいただきました。これをゆっくり整理して、活用させていただきたいと思います。吉野さんのコミュニケーションのセンスと企画力はステキでした。たくさんのごことを学ばせていただき、ありがとうございました。

(雲尾議長)

先日の日曜、私は学生を連れて柏崎の北条地区と長岡市の木沢地区に行ってきたのですが、北条地区は今、人口3,000人ですかね。ここのところ1,000人くらい減っているのですが、地域の中でも合併と。柏崎は公民館が全小学校区にあってコミュニティセンター併設だったので、平成15年に全部コミュニティセンターに一本化しました。ただ、その中でも、学びの循環というのは非常に意識していて、公民館活動でやったことは必ず成果物として出すという形で報告書を出したり、地域の郷土料理の冊子を出したり、山の看板、登山の看板を作ったり、さまざまな活動を続けている地域なのです。そういう学びが繋がっていく地域なのだなということが分かりましたし、木沢地区に至っては、今、人口70人くらい。大変小さな集落にはなっていますが、昨日もイベントがあって、同じくらいの人たちが集まってくるという中で、中越地震後、さびれた中を活性化させながらがんばっています。地域の魅力を最大限に活かしているということが根底にありました。この後、山古志の木籠地区という水没集落のところですが、そこは山古志木籠ふるさと会という全国組織を作って、150人くらいの会員があるのですが、その郷見庵というところは、大体常時、新潟市も含めて近隣の30人くらいの方が建物の運営、お店を出して、毎日開いているのです。たくさんの方が訪れるという仕組みを作っています。どれもけっこう震災を契機にして、本来ならば震災がなくても20年、30年したら過疎が進行して、力がなくなるところと同じで、多分、10年、20年、人が減るのを早めたけれども、その分、周りとのこういう活性化をしているという事例ではあるのです。ただ、新潟市の場合、周りとの交流というよりも、まずその中にある力をもっとそういう意味では呼び起こせるのではないかと。そういう魅力を見つけて、地域の人たち自身が作っていける力があって、多分、北条の3,000人でもできるし、もっとできるのではないかと。そういう一つの仕掛けとして、内野でやっているようなことをそれぞれの地域で考えてやっていただけたらいいのかなということで、ご紹介いただきました。

この件につきまして、そのほかよろしいでしょうか。では、西地区公民館のお二人ありがとうございました。

#### (4)「ふじみ子ども食堂」の視察について

(雲尾議長)

事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習センター主事)

お配りしました、資料4をご覧ください。次の視察場所としまして、東区の藤見団地集会所というところで、地域の子供を集めた子ども食堂を視察先を選びました。ふじみ子ども食堂は、立松有美さんという方が代表を務めておられ、以前は坂井輪地区公民館でも活動されていて、今現在、ふじみ子ども食堂を立ち上げて、東区でやられています。

二つ日程が書いてありますので、ご都合のつく日にちのどちらかに、ご参加いただければと思っております。会場の都合上、どちらの日程も10名程度でお願いいたしますと言われておりまして、場合によっては少し調整させていただくことも出てくるかもしれません。11月24日と12月8日(木)で、時間帯はいずれも午後3時30分から午後7時30分までとなります。大体的流れなのですが、準備が始まる前にスタッフやボランティアの方から聞き取りをし、その後、参加される方たちの様子を見たり、実際に当日の状況にもよるそうなのですが、食事をとっていただいて終了と考えています。

裏面に駐車場についての案内がございます。会場の藤見団地集会所の近くに新潟地域職業訓練センターがありますので、そちらのほうにお車をとめていただければと思います。交通手段のない方がいらっしゃいましたら、11月15日までにおっしゃっていただければ事務局で手配いたします。参

### 第32期新潟市社会教育委員会議

加希望につきましても11月15日(火)までをお願いしたいと思いますが、今日日程の分かる方がいらっしゃいましたら、お申し込みいただければと思います。

3の協力金ということで、見学に行かれる方には、申し訳ありませんがお一人300円のご負担をお願いしたいと思います。

(雲尾議長)

では、このふじみ子ども食堂の視察につきまして、参加いただく方は今、この場で決まっていれば聞いていきますが、いかがでしょうか。

(横坂委員)

24日参加いたします。

(小川委員)

私も行くなら24日がいいです。

(雲尾議長)

そのほかの委員の方々は。

(伊井委員)

12月8日。

(齊川委員)

両日とも会議が入っておりまして、欠席でお願いします。

(南雲委員)

私も会議が入ってしまったので。

(雲尾議長)

渡邊委員も難しいですかね。

(渡邊委員)

24日は入っているし、8日はコミュニティ協議会の関係があるから、まだちょっと。

(雲尾議長)

分かりました。では、24日に横坂委員、小川委員、12月8日に伊井委員ということで、ご欠席の委員につきましては事務局からお話いただくという形で、両日とも実施するというようお願いいたします。参加後はレポートの提出と報告となるかと思しますので、1月の会議の際までをお願いいたします。

以上で、事例研究は終了いたしまして、その他となりますが、あとは事務局をお願いいたします。

## 5. その他

(事務局)

それでは皆様、長時間にわたりご審議ありがとうございました。

最後になりますけれども、生涯学習センター事業の家庭教育フォーラムについてご案内して終了したいと思います。お手元のチラシをご覧くださいと思います。

家庭教育の大切さを認識していただくために開催する本事業ですけれども、今年度は子どものストレスと親のかかわりというタイトルで、兵庫教育大学大学院の富永良喜先生をお招きいたしまして、12月10日、江南区文化会館にて開催いたします。社会教育委員の皆様、もしご都合がございましたら、ぜひご参加いただきたいと思います、ご案内させていただきました。こちらのチラシにはコールセンターと書いてありますが、生涯学習センターに直接お持ちいただければ、受付をさせていただきますので、ぜひよろしくをお願いいたします。

## 6. 閉会

(事務局)

では、以上をもちまして、第32期社会教育委員会議第3回を終了いたします。次回は1月18日の午後2時からで、会場はまた別途ご案内させていただきますと思います。以上で、本日予定いたし

第3 2期新潟市社会教育委員会議

ておりましたプログラムはすべて終了になります。大変お疲れさまでした。